

欲望に駆られた世界

友人が私に尋ねました。「あなたは友達が重要だと思いますか？現代社会において、友達は私たちの生活の中でどれくらいの比重を占めているのでしょうか？」と。年齢によって答えは異なりますし、私たちが何をしているか、多くの友達が必要かどうかにもよります。時には友達が必要で、時には必要ない、それは私たちの欲望次第で、目標を達成する過程で友達が必要かどうかによります。広く人脈を築き、起業に励んでいる私に聞けば、もちろん友達は非常に重要だと答えるでしょう。しかし、仏系で人生を考え、ただ生活費を稼げれば満足している私に聞けば、真心のこもった友達が数人いれば十分だと答えるでしょう。これらはすべて、私の現在の欲望に依存しています。この世界は、結局のところ、欲望によって動かされている世界なのです。

人間の本能は、常に自分自身のためである。私はほとんどの時間を自分自身のことに費やし、何をすべきか、何をしたいか、どうすれば目的を達成できるか、何をすれば楽しいかなどを考えている。他の人も同じだ。たとえパートナーと同じ屋根の下にいても、私たちが協力する時間は少なく、依然としてそれぞれが自分のことをしている。たとえ私たちが協力して、会話をしたり、家事を分担したり、寝たりしても、それは平等であり、それぞれの自分自身のためである。誰かが助けを必要としている時、手が空いていて便利ならば、私は手助けをする。人を助けることは楽しいことであり、そうすることでこの厳しい社会の中で一種の慰めを得ることができる。

人間には様々な欲望があります。私たちはこれらの欲望のために多くのことを行い、世界を動かしています。時には自分の欲望のために、あらゆる代償を払うこともあります。しかし、他人の欲望を満たすためには、十分な報酬、フィードバック、そして良い心構えが必要です。そうでなければ、他人のために働くことはできません。人間とはそういうものです。私は自己中心的ですが、人類の半分は私よりもさらに自己中心的で、私よりも上手くやっています。

「一度の協力、一生の友」という考えを真に理解し、実践できる人はやはり少数です。協力した後、必ずしも友達になるわけではありません。友達とは一体何でしょうか？どのような人を友達と呼べるのでしょうか？私のSNSを見て「いいね」をしてくれるのでしょうか？困難な時に手を差し伸べてくれるのでしょうか？必要な時に金を貸してくれるのでしょうか？ユーザーや顧客を紹介してくれるのでしょうか？

私は気づきました。私たちの世界、私たちの社会、お金に駆り立てられる世界、欲望に駆り立てられる世界、個人がますます自己中心的になる世界において、私たちは「友達」という概念を持つべきではないということに。この概念は古びつつあります。もっと重要なのは、世界を駆り立てる欲望を理解することです。

私たちはインターネットの中に生きています。友人やクラスメートとの交流よりも、好きなブロガーや、好きな芸能人、アイドル、インフルエンサーとの交流の方が多いかもしれません。友達に数百円を貸すのをためらうこともありますが、好きなものには大金をかけることができま

す。私の妻は、好きなものには数千元から数万元を費やすことができますが、私にそれほどの大きなお年玉を渡すのは気が進まないようです。私も同じです。

生活は、まさにこんなに現実的です。ははは。人々は公平な取引を好み、損をしたり、利用されたりするのを嫌います。人々はしばしば公平な取引さえも好まず、海賊版を利用して得をしようとし、何の利益もないことに誰が手を出すでしょうか、1ドルでもあれば「いいね」や投票をするかどうかはわからないのに、ましてや何もない場合にはなおさらです。

同様に、私が記事を書く際、もしそれが広く読まれることを望むなら、友人との感情的なつながりをどう築くかではなく、むしろ友人の欲望をどう満たすかに焦点を当てるべきです。友人たちが記事を読む欲望とは、情報を得ること、知識を学ぶこと、感情的な慰めを得ること、そして鼓舞されることなどです。もし私の記事がもっと広く読まれることを望むなら、この社会が何を欲望しているのかを理解し、その欲望を満たすためにどう記事を書くべきかを考えるべきです。どのような人々をターゲットにし、どのような内容を作成して、彼らの欲望を満たすべきかを考える必要があります。

この時、私は気づきました。友人関係は友情に帰結できると。私たちが議論しているのは人間の感情です。友情はそれほど重要ではなくなっただよように感じます。愛情なども同様で、人間の感情はそれほど重要ではなくなりました。より重要で、より永続的なのは欲望です。欲望が世界を動かし、それは永遠に変わりません。

社会は多くの変遷を経てきました。明や清の時代には、家族が重要視され、家族の人数が多いことが重要でした。家族の人数が多ければ多いほど、秀才が出る可能性が高くなりました。人数が多いほど力も強く、村での争いでも有利でした。また、人数が多いほど耕作地も多く得られました。しかし、人数が多くなると、一人当たりの耕作可能な土地の面積が小さくなり、災害や飢饉が起こりやすくなり、流民が増えることになりました。もし誰かが反乱を起こせば、その道中で呼びかけ、勢力を形成し、社会の混乱を引き起こすことができました。これは『人口：中国の懸剣』という本から学んだことで、その中にはマルサスの『人口論』についても言及されていました。

この100年間、社会も多くの変遷を経験してきました。そしてこの10年間、モバイルインターネットが世界に大きな変化をもたらしました。

私たちの世代と親の世代では、友達の作り方に多くの変化があると感じています。私たちの親の世代は、彼らの友達の多くが20年以上の付き合いです。30歳を過ぎると、新しい友達を作るとはほとんどないようです。彼らの多くはSNSに投稿することも少なく、親戚や友達とはすでに十分に知り合っているのです。特に投稿する内容もないようです。一方で、私たち80年代、90年代生まれの若者世代は、今でもSNSで日常をシェアしています。親とその友達たちは、時々会って集まったり、用事があれば電話をかけたり、年末年始や特別なイベントの際に集まったりします。

そして私は、友達の輪を発信しなければ生活が同じように退屈であることに気づいた後、再び友達の輪を発信し始め、次第にすべてのことを友達の輪で済ませたいと思うようになりました。誰かを邪魔したくないし、誰が私とチャットする時間があるのかわからないし、誰がまだ私を気にかけているのかわからないし、誰が私を助けてくれるのかわからないので、友達の輪に投稿して聞いてみればわかります。私は、直接会って知り合うこととオンラインで知り合うことの境界がすでに非常に曖昧になっており、まだ会ったことのない友人たちが私に多くの助けを提供してくれていることに気づきました。

もちろん、状況によっていろいろあります。道理から言えば、まずは誰に対しても信頼と敬意を持って友好的に接し、次に、相手も同じように自分に接してくれることを望むべきです。それぞれの友達に対して区別して接することが重要で、親しい友達には親しく接し、知らない友達には丁寧な接するべきです。

確かに、この時代においては、直接会って他人を知るという方法をそれほど重要視しなくても良いのかもしれませんが。インターネットの世界では、お互いの生活に関心を持ち、深く共感し合うことが、より重要になっていると言えるでしょう。会うことは、あくまで一人の人を知る一つの方法に過ぎません。今や、インターネットの世界では、人を知る方法は多様化しています。

男女の友達が別れた後、互いに削除してしまうことがあります。おそらく、私たちは必ずしもWeChatの連絡先にいるかどうかをそれほど重視していないのかもしれませんが。そう、これらは欲望と比べるとそれほど重要ではないように思えます。

私たちとある人との関係は、お互いの欲望を成就し合っているかどうかによって決まります。私は社長で、オンラインで人を採用しました。私と従業員はお互いの欲望を成就し合い、満たし合っているので、私たちの関係は良好です。友人との関係も良好ですが、私たちは異なることをしており、長い時間が経つにつれて、連絡も少なくなり、関係も薄れていきます。

多くの経験を経て、私はますます快適ゾーンに留まりたくなくなっています。人々に合わせるのは疲れるし、さまざまな誤解が生じます。私は人々の欲望に参加することができず、私はとても小さい存在です。家族でさえも互いに理解し合えないことがよくあります。私は記事を書き、動画を作り、自分勝手に表現しています。もし多くの友人が聞いてくれるならもちろん嬉しいですが、誰も聞いてくれなくても、それはそれで構わないようです。私はますます批判や否定的な意見に耳を貸さなくなっています。なぜなら、私は自分が悪いことをしているとは思わず、ただ自分の考えと個性を持っているだけだからです。私は認めました、私は自分を変えることができません、私はこういう人間なのです。この世界には多くの人が出て、チャットや交流、協力、お金を稼ぐこと、遊ぶこと、私たちはただ自分を認めてくれる一部の人を見つければいいのです。価値観で顧客を選別するという経営理念があります。

時々、私は家でこう言います。「批判的な言葉は少なく、ネガティブな言葉も少なくして、私は聞きたくない」と。私はそういう人間です。そして、私よりも生活習慣や道徳観、能力、EQが

劣る人はたくさんいます。もし他人が自分を尊重していないわけではなく、ただ自分と違うだけなら、私たちは他人を受け入れるべきです。私はそうであり、多くの人もそうであると思います。私を受け入れないということは、無数の人々を受け入れないことになります。そうなれば、必然的に悩みが生じます。私は比較的独立した人間なので、できるだけ独立した空間を与え、互いに干渉せず、協力しなければならない場面を最小限に抑えるべきです。しかし、家族とはやはり時々一緒に過ごすべきです。だから、私は、私も家族も心の持ち方を調整し、お互いを受け入れ、平和に暮らすべきだと考えています。

欲望について話すと、お金を稼ぐことにも触れなければなりません。Paul GrahamはYCインキュベーターに「make something people want」というスローガンを掲げました。起業とは、人々の欲望を満たす何かを作り出すことです。

私は自分の欲望を観察し始めました。学生時代、私は高得点を取り、トップになって清華大学や北京大学に入ることを望んでいました。大学時代、私は自分でスキルを学び、趣味を発展させ、インターンシップを見つけ、恋愛をすることを望んでいました。仕事を始めた後、私はスキルを向上させ、同僚の認められることを望んでいました。起業した後、私は起業に成功し、多くの人に影響を与え、名声と利益を手に入れることを望んでいました。今、私は多くのことを試し、ずっと落ち着いていますが、世俗を見透かしたような迷いもあります。簡単に言えば、今の私は何かやることを見つけ、それでお金を稼いで家族を養えればいいと思っています。大人として、お金を稼いで生きていくことは避けられないテーマです。

お金を稼ぐということは、人々の欲望を満たすことです。私が入る人々の欲望を観察すると、彼らは皆私のお金を稼ぎたがっていることに気づきました。世界中に広がる広告、SNSのタイムラインを埋め尽くす広告、TikTokのフォロワーを増やすための戦略。

私がある欲望がお金よりも重要だと気づいた時、私はその欲望とお金を交換します。お金は価値の尺度です。自分で無料で手に入れることができない時、私はお金を使ってそれを手に入れます。また、自分で努力するよりもお金を使った方が効率的だと感じた時、私はお金を使ってそれを手に入れます。

男性のお金を稼ぐのは本当に難しい。それは、男性が家族を養わなければならないから。男性の生活は比較的粗くシンプルで、女性のように繊細さを追求しない。また、人々がどのようにお金を稼ぐかにもよる。もしお金を稼ぐのがとても苦勞するなら、さらに使うのが惜しくなる。

家庭にはリスクが伴い、そのリスクはしばしば男性が負うことになります。例えば、家族が病気になったりする場合などです。そのため、男性はお金を使う際により慎重になります。私は時々妻に冗談を言いますが、私のどんなお金も、10年のスパンで見て、今日使うべきかどうかを判断する必要があると。私は自慢げに、私のお金は世界で最も稼ぐのが難しいお金だと言います。なぜなら、私は自分自身を無欲無求に保つよう努力しているからです。そうは言っても、家庭に

は多くの出費があり、家族のことを考えなければなりません。

どうやってお金持ちになるか。私はお金持ちになったことはありませんが、様々なことをして、一生懸命働いてお金を稼いだことはあります。簡単に言えば、一生懸命に取り組み、他人の欲望を全力で満たすことです。私たちが一心にお金を稼ぐことに集中しているとき、お金を使う時間はありません。お金を使うことも投資であり、将来もっとお金を稼ぐためです。

私は気づきました、インターネット上で生活する人々が、ますます自己中心的になっていることに。すべての感情は、もはや重要ではなくなっています。私はただ、自分の欲望をすぐに実現したいだけです。さまざまなアプリケーションの検索ボックスがますます重要になっています、なぜならそこには欲望が満ちているからです。

これは欲望に駆り立てられる世界であり、いかに便利で、いかに早く自分の欲望を満たすかが重視されます。現代の生活とインターネットは人々を怠けさせ、若い世代をより自由で自己中心的にしています。人々はますます即時のフィードバックを求めるようになり、ますます忍耐力を失っています。

朋友圈は、人々とそのフォロワーや友達の世界として機能しています。各人の朋友圈がどのようなものであるかは、彼らの欲望によって決まります。彼らが普段何をしているか、何をしたいかによって、彼らの朋友圈の姿が形作られます。私と友人たちとの関係は、私と友人たちの欲望、そして私が彼らをどれだけ必要としているか、彼らが私をどれだけ必要としているかによって決まります。

欲望が世界を動かしていると気づいた時、人々が私を訪ねてくるたびに、彼らのSNSの投稿一つ一つに、どんな欲望が隠れているのかを考えることがあります。もしその欲望が強いものであれば、そこにはお金を稼ぐチャンスがあるのです。時には、友達の採用を手伝ったり、何かを代行したりするのに、明確な料金を設定するのも良い方法です。そうすることで、友達は安心して私に助けを求めることができるからです。

この点に気づいた後、14億人それぞれがどんな欲望を持っているのかを考えてみましょう。私自身の人生において、これまでどんな欲望を持ってきたのでしょうか。もしそれが本物の欲望であれば、そのうちの一部の人々にサービスを提供することで、私たち自身の生活を支えることができるかもしれません。

ここまで話してくると、まるで人々がただ互いに利用し合っているだけのように聞こえるかもしれません。もちろん、愛も存在しますし、同情や思いやり、慈善活動も人々のニーズの一つです。また、ますます多くの人々がすべてを理解し、精神的に豊かになり、無私的心で施しをするようになっています。この世界がますます自己中心的になっているからこそ、愛や善良さ、同情、信頼が非常に貴重なものとなっています。しかし、人々はあまりにも賢く、インフルエンサーや大物経営者たちはこの点を巧みに利用して、人々の心を掴むことができます。さらに、ネット上で最も安い価格やさまざまな特典を提供して商品売ること、人々のお金を節約するこ

とが真の愛であるとしています。

たくさんのお話を話しましたが、もしかしたら私の認識は偏っているのかもしれませんが。90年代生まれの私から見た、偏った世界観なのかもしれません。考えたことを書き出し、整理することで、フィードバックも得られるかもしれません。

これは欲望に駆り立てられる世界です。この世界は良くないように見えるかもしれませんが、良くないこともまた良くないことではありません。この世界はこういうもので、私もそうだし、多くの人もそうで、それ自体は悪いことではありません。私たちはまた、この世界は素晴らしいとも言えます。この世界はこんなにも多彩で豊かなのです。

私たちがそれぞれの欲望を洞察し始めると、この世界をより深く理解しているように感じます。これは欲望に駆り立てられた世界であり、ますます自己中心的になっています。未来はどうなるのでしょうか、この世界はますます興味深くなっています。